

らい 来ぶらり 32

「卒業」なんてないのだ

—— 本当の勉強が始まる ——

高校の修学旅行に持っていった「お小遣い」を、京都の古本屋ですっかりはたいて帰ってきたような変な少年が、あれこれ悩みもしないで選んでしまった図書館員という職業についてから、もう30数年もたってしまった。どちらを向いても本だらけの職場にいながら、仕事帰りに本屋に立ち寄り、家に帰れば書棚からはみ出した本をどうやって片付けようか思案にくれ、休日の土曜日には神保町界隈をふらついているなどというのは、他人から見れば、幸せそのものかもしれない。だから、これから社会へ出ようとして、期待や戸惑いの中にいる人たちに向かって、何をいえばいいのか分からない。だが、振り返ってみて一つだけ「卒業なんて実はないのだ」というようなことはいいたい。

司書になるために学校へ通ったはずなのに、現実に図書館員になったとき、何にもできないのに気が付いてうらたえてしまったことを覚えている。小学校から数えれば、4回の卒業をしたわけだが、いつもそのあとになってから、あわてて後追い勉強をしてきたような気がする。そしていまだにその後追い勉強が終わりそうもないが、それがいつの間にか年齢との競争になってしまった感がある。

職業についてから、必要に迫られたり、自分の工夫から得た経験や知識を積み上げてゆ

次長 佐野 眞
こうとするとき、とうに忘れてしまったと思っていたものが、じわりと浮かび上がってきたりもするけれど、学校で何を学んできたのかを改めて考えてみると、それは課せられた試験の解答や、レポートの結果ではなく、そのために苦労した準備や調査そのもののほうに大きな意味があったことに気付く。要するに知識を得たのではなく、実は勉強の仕方を訓練したのである。今風にいえば、学校では情報処理の方法を学んだはずなのである。

大学を卒業したはずなのに、何にも知らないことを実感する日はもうすぐやってくる。大学で得た知識など、ほんのわずかでしかないことに気付く日がやってくるだろう。「卒業」とはその直前の警鐘であり、警鐘だと気付いた人の本当の勉強が始まるのである。

社会に出ることによって、これまで学んできた「学ぶこと」のノウハウが試され、磨かれてゆく。学生時代に得た雑多な知識がだいに整理され、これから得る知識と結び付いてそのしまい場所がはっきりしてくる。やがてインデックスに必然性が生まれ、自分のキーワードを持つようになる。「卒業」はその始まりなのです。

学んで、ときにこれを習う場所、その名も学習院大学図書館が、待っています。



卒業生への閲覧・貸出サービス

学習院大学では在学生だけでなく、卒業生に対しても資料の閲覧その他のサービスをおこなっています。図書館をはじめとして、それぞれの学部・学科で、卒業生にどのようなサービスをおこなっているかを紹介します。

1. 図書館

2階カウンターで「卒業生利用証発行願」を記入し提出すれば、卒業生であることを確認した上で利用証の発行をします。利用証の有効期限は6ヶ月間です。

資料の閲覧とコピーが可能です。

2. 学部・学科図書室および研究室

利用資格は当該学部・学科の卒業生であることが前提です。手続きについては、各図書室・研究室にお尋ねください。

〔法経図書室〕

閲覧・コピー・貸出が可能です。

貸出冊数は2冊、貸出期間は2週間。

〔哲学科研究室〕

閲覧・コピー・貸出が可能です。

貸出冊数は5冊、貸出期間は和書1ヶ月、洋書3ヶ月。

月、洋書3ヶ月。

〔史学科研究室〕

閲覧とコピーが可能です。

〔独文学科研究室〕

閲覧・コピー・貸出が可能です。

貸出期間は3ヶ月。

〔仏文学科研究室〕

閲覧・コピー・貸出が可能です。

貸出冊数は3冊、貸出期間は1ヶ月。

〔心理学科研究室〕

閲覧・コピー・貸出が可能です。

貸出冊数は5冊、貸出期間は和書2週間、洋書1ヶ月。

〔物理・化学科図書室〕

閲覧とコピーが可能です。

〔数学科図書室〕

閲覧・コピー・貸出が可能です。

貸出冊数は1冊、貸出期間は1ヶ月。

(運用係 上野しのぶ)

和漢書を読み続けて44年

ある卒業生の図書館利用法

昭和22年(1947年)4月から与えられた研究日は1週間に1日だが教材研究にありがたい制度だった。教科書に○○全集によったとあるが本当かどうかと調べると、時々間違いや脱漏が出てきた。頭注や脚注の説明に不備なものがあった。本文の内容に分からない個所があった。「この歌は○○にある」と出ているが実際はなかったり、夏歌を秋歌と間違えたり、どこの春にあるのか不明だったりして困ったことが何回もあった。調査の結果判明した事柄や誤りを訂正した件を国語科打ち合わせ会の席上で同僚に報告した。昭和55年(1980年)3月退職の後、

昭和62年(1987年)3月まで時間講師として勤めた。その間も前と同じ態度で臨んだ。大学や図書館がない町の学校に勤めていたならば、こんなことは不可能だったろう。

平安時代の歴史物語が好きで調べたが、それだけでは済むものではないと知って、漢詩文・作り物語・和歌・評論と間口を広げて勉強しているが、分からないことが多い。調査の結果をまとめて『解釈』という雑誌に発表する。文学部国文学科研究室が本誌を購入すると聞いて、図書館利用のありがたみを痛感する。

(元都立高校教員 昭和8年高等科卒 乙部譲爾)

図書館利用体験記

フランス国立図書館

昨年(1990年)の夏休み、わずか数日間ですが、パリに行く機会がありました。そこで前から一度訪れてみたかった国立図書館(BN)にぜひ足を運んでみようと思ったのです。私が閲覧したかったのは日本近世の劇作家、近松門左衛門の浄瑠璃本でした。和書がパリにあるなどというのは大変不思議なことのように思えますが、BNには現在日本国内でも確認されていないような浄瑠璃本が所蔵されているのです。

この図書館を訪ねるにあたり、私は学習院大学図書館の司書の方に相談してみました。司書のAさんは『フランス図書館情報ハンドブック』(日仏図書館研究シリーズNo.2)という本や8月にBNが開館しているかどうか、といったことを教えて下さいました。また、Aさんのお知り合いの先生にBNに勤めていらっしゃる方を御紹介頂き、手紙でBNの様子をお伺いすることもできました。お話によると私が閲覧を希望している浄瑠璃本は「特別版画室」という部屋に収められており、そこは火曜日と木曜日の午前10時から12時まで開室しているそうです。そしてお昼以降は「一般版画室」で引き続き本を閲覧させて頂けるということでした。

実際にBNに行くと、まず入口受付で入館手続が必要です。私の場合は仏語ができなかったので手間どりましたが、図書館備え付けの写真機で写真を撮ってもらい、宿泊しているホテル名、閲覧したい書名等を書き込み「利用証」を作りました。(本



フランス国立図書館の前にて

当は、自分の顔写真2枚と大学からの身分証明書一できれば仏語一、図書館からの紹介状を事前に用意し、持参すると良いようです)その日は、図書館に着いた時間がお昼近くだったため、本は最初から「一般版画室」で見せて頂くことになりました。「一般版画室」では奥の部屋で本の番号を調べて「借用証」に記入するように言われました。その「借用証」を「一般版画室」の受付わきにあるボックスに入れると係員の方が本を持って来て下さるのです。この部屋では入口に入る時に座席札が渡され、各自の席が指定されていました。「借用証」には座席番号を書く欄があり、係員の方がそれぞれの座席まで本を届けに来て下さいます。閲覧は午後5時30分までできました。外国の図書館で浄瑠璃本を眺めるのは、ちょっと奇妙な感じでしたが、BNの司書の方も、こちらから頼めば親切に接して下さい、緊張もした反面、楽しい時間を過ごすことができました。(研究生 清水裕美子)

欧文紹介状発行のご案内

— 学生・教職員の皆さんへ —

外国の図書館を利用する人は、本学図書館発行の欧文紹介状を持参して下さい。

滞在日数が限られている場合は、予定の日に希望の資料が閲覧できることを先方に確か

めてから出発するようお勧めします。

なお、訪問先を前もって特定できない人には、To Whom It May Concern (関係者各位) という宛名で紹介状を発行しています。

(図書館2階カウンター扱い)

第90回資料紹介展(1989年1月)で「当館所蔵企業PR誌」をとりあげたが、その後寄贈され始めたもの、その際とりあげなかったものを、この紙面をかりて紹介する。

①FUJITSU 飛翔 (富士通)

「国際派感覚人とは」「アジア新時代を問う」など毎号特集を組み、内容のレベルも高い。誌名には、「21世紀の未来へ、夢をあたりにするため、高く翔びたい」願いがこめられている。1989年12月創刊 季刊 (Zs3755)

②ひととき (JR東海)

「人間=ひと」と「時間=とき」のよりよい関わりをテーマに」発行。「鉄道博物誌」「地球各駅停車」など鉄道会社らしい連載もあり、しばし読むひとときを楽しめる。1989年4月創刊 季刊 (Zs3740)

③HUMAN STUDIES (電通総研)

「間」「豊かさ?」「情報」など毎号の特集について、対談、小論文、統計などで手軽に読ませる提言誌。第3号「特集パトロネージ」(1989.7)の対談「文化、その二つの視座について」のゲストは、本学教授辻邦生氏である。1988年7月創刊 年2回刊 (Zs3725)

当館所蔵 企業PR誌 その2



④ ILLUME (東京電力)

「科学・技術の視点から多彩に創造活動をとらえ」る雑誌。「知の先端と広い社会をつなぐ1本の道を、照明 (illuminate) しつづけた」と考え」発行。「生命と場」「物の性質」など毎号特集を組み、内容は学術的。Vol. 2 No. 2 「特集技術と藝術そして文明」(1990.10)に「インタビュー-小平邦彦博士無意識の時がつむぎ出す創造の世界」(本学元教授)が掲載されている。

1989年4月創刊 年2回刊 (Zs3748)

⑤ジャストナウ (日本たばこ産業)

毎号特集を組み、対談、エッセイ中心の気軽な雑誌。これまでの『ばいぶ』(P051-780)、『ハーファタイム』に替わるもの。

1989年7月創刊 季刊 (P051-780A(仮))

このほか欧文誌としては、『iichiko intercultural』(P301.15-1h9) <『季刊iichiko』(P051-794)の国際版>や『Lufthansa's Germany』(ルフトハンザドイツ航空広報誌、P914.3-L967)などがある。

企業のPR臭を感じさせない文化的、学術的内容のものがますます定着しつつあるがこれこそ企業のイメージアップ戦略の最先端かもしれない。(雑誌係 中野里美)

※ (Zs3725) (P051-780) 等は請求記号

編集後記

まだ来てもいない21世紀の歴史が、今後10年間で決定されるかもしれない。欧州における政治的・経済的再編成・再統合の動きである。

一方、未来の図書館像をほぼ決定するようなことも、この10年間に起きる可能性が極めて高い。その最前線に位置するものがサービスである。その一環として、卒業後のユーザー

に対するアフターケアも含まれる。

本号はその現状と実際の報告である。

◎おわびと訂正

第31号「IFLAとは」(3ページ)の記事中の次の項目を訂正して下さい。

設立: 1927年(1990年現在) → 1927年

加盟国: 129 → 129(1990年現在)

来ぶらり No.32 1991年1月1日発行

発行責任者: 高本 進 編集委員: 広瀬淳子 鈴木宗一

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎03(3981)0221